「マタイ7章　山上の垂訓(3)」

イントロ:

1. 文脈で判断することが大切。
2. 山上の垂訓の本質は、「メシアによる律法の義の解釈」である。
   口伝律法(先祖たちの言い伝え)を否定し、正しい律法解釈を教えている。
   そういう文脈で、山上の垂訓を解釈する必要がある。

マタイ7章を前半と後半にわけて解説する。

Ⅰ. 前半:7章 1 節～12 節(6 章からの続き、律法の義の実践)

1. さばき
   (1) 批評や判断の否定ではなく、口伝律法による「さばき」の禁止。
   (2) 人間が作った基準で他人をさばく者は、偽善者である。
   (3) 正しくさばくことの重要性。
      ①6 節。神に属するもの、神の国の福音を、愚か者に与えるな。
      ②マタイ 18 章　教会内での罪の処理
2. 祈り
   (1) 継続した祈り
   (2) 天の父に信頼した祈り
   (3) ラビ的教授法:位の低いもの(価値の低いもの)と、位の高いものの対比。
      人間の父親でもこうなのだから、天の父なら言うまでもない。
   (4) よく似たものの例示
      ①パンと石
      ②魚と蛇
      ③卵とサソリ(ルカ 11 章)
   (5) 今の時代(恵みの時代)との相違
      ①ヨハネ 16:24 の真理はまだ開かれていない。イエスの御名による祈り。
      ②現代の私たちには、より大きな責任と特権が与えられている。
3. 黄金律
   (1) すでに救われている者に与えられた行動規範。
   (2) 天の父から良いものを受けたように、他の人にも良いものを与えよという命令。
   (3) この命令こそ、旧約聖書全体(律法と預言者)を要約するもの。

Ⅰ．後半:7章 13 節～29 節(4つの対比)

1．　2つの道の対比

(1) 「広い門」、「広い道」とは、口伝律法による救いの方法。

①ユダヤ人は全員、天の御国に入れる。

②それは、滅びに至る門であり、道である。

③ヨハネ3章のニコデモも、驚いている。

(2) 「狭い門」、「狭い道」とは、イエスが教える救いの方法。

①「信仰による義」

②それを見いだす者はまれである。

③多数の意見に流されるな。永遠の運命がかかっている。

2．　2種類の預言者の対比

(1) 偽預言者の存在。

①イスラエルの民は、指導者コンプレックスを持っている。

②モーセによる預言　申命記 13:1～5

③旧約聖書の預言者たちは、偽預言者によって苦しめられた。

④パウロも、使徒 20:29～30 で、エペソの長老たちに警告している。

(2) 偽預言者の見分け方。

①羊の皮をかぶってやってくる。

②新しい教えに、すぐに飛びつくな。

③その実によって見分ける。

④主の預言者は、主イエスに接ぎ木され、よい実を結ぶ(ヨハネ 15 章)。

3．　2種類の告白の対比

(1) 自己欺瞞の告白

①「主よ、主よ」と口では告白するが、霊的に新生していない。

②主の御名によって預言する。しかし、それは御名の冒涜である。

③主の御名によって悪霊を追い出すが、これは本物の証明にはならない。

④主の御名によって多くの奇蹟を行うが、これも本物の証明にはならない。

出エジプト記に登場するエジプトの魔術師たちの例。

(2) さばきの日に明らかになる。

①「わたしはあなたがたを全然知らない。

不法をなす者ども。わたしから離れて行け」

②新生の必要性。

4.　2種類の建築家の対比

(1) 賢い人

①岩の上に家を建てた。

②試練(嵐)が襲ってきても、倒れることはない。

③賢い人とは、イエスのことばを聞いて、それを実行する人。

(2) 愚かな人

①砂の上に家を建てた。

②試練(嵐)が襲ってくると、押し流されてしまう。

③愚かな人とは、イエスのことばを聞いても、それを実行しない人。

結論

1. 人生は、岐路に立たされた時に、その方向性が決まる。
2. 容易な道、人気のある道、誰もが選びたくなるような道ではなく、その逆を行け。
3. 私たちは、日々、岐路に立たされている。

(例話)熊本刑務所でのメッセージ

(1) 自分で選んで、今の人生がある。

(2) 今、また岐路に立たされている。

(3) 今行う選びが、明日の私の人生を作る。